

	<h1>大砂土小だより</h1>	学校教育目標「自ら学び、考えて行動する児童の育成」
		～ 認め合い・学び合い・共に育つ ～
		<目指す児童像> 豊かなコミュニケーションの下で、 かしこい子(知) 明るい子(徳) たしむしい子(体)
令和8年1月30日 第10号		TEL 663-7005 FAX 663-9886
大砂土小学校 ホームページは http://osato-esaitama-city.ed.jp/		メールアドレス osato-e@saitama-city.ed.jp

備えること、準備すること

校長 新堀 栄

来週より2月に入ります。6年生の残された登校日数は34日。3学期はあっという間です。一日一日が楽しく輝く日々でありますように。

2026年2月6日から22日まで、第25回オリンピック冬季競技大会がイタリア北部の都市ミラノとコルティナ・ダンペッツォで開催されます。イタリアではこれまでに冬季オリンピックが2度開催されており、コルティナ1956冬季大会からは70年ぶり、トリノ2006冬季大会から20年ぶりの開催で、ミラノでは夏冬通して初めてのオリンピックとなります。8競技116種目が実施され、冬季競技のアスリートたちが熱戦を繰り広げます。私は教員人生の中で、7年間を豪雪地帯で勤務しましたので、スキーはもとより、フィギアスケートやスピードスケートなど、全てのウィンタースポーツが大好きです。中でも「スキージャンプ競技」が一番楽しみにしています。スキージャンプは、向かい風であるほど飛距離が伸びることは良く知られています。しかし、「空気力学」をはじめとする科学的な根拠を重ねるだけではなく、目まぐるしく変わる風の状況に飛距離が大きく左右されるため、実力とともに、「運」も大きく影響する競技だと思えます。だから面白いのです。少しマニアックな話になりますが、ジャンプ台は直線に見える部分がありますが、全て曲線で、一つ一つのジャンプ台ごとに曲率が違うのです。助走路は、【上部：比較的緩い曲率】・【中部：曲率が徐々に強くなる】・【下部（踏み切り直前）：ほぼ直線に近い小さな曲率】という“連続的に変化する曲率”で設計され、選手の重心軌道が自然に前方へ移動し、踏み切り姿勢に入ることができるようにするためのものだそうです。ジャンプ台の曲率設計は、スキージャンプ技術の中でも“最も専門的で、選手の身体感覚と物理が交差する領域”と言われています。

話は少し変わりますが、オリンピックをはじめとするスポーツ競技全般の実況中継は筋書きが無く、常に競技者の一挙手一投足を見逃さず、瞬時にその様子をわかりやすく伝えなければなりません。さらに、その場その場の状況を広い視野でとらえ、タイミングよく話すことやプレイヤーのもつバックグラウンドも紹介することが常です。実況中継のアナウンサーの言葉、内容を集中して聞いていると、「ものすごい量の情報」を把握していることにいつも感心します。

あるFMラジオ局の番組で、スポーツ実況のアナウンサーをゲストに迎えパーソナリティが質問していました。「実況中継は、原稿を読むことではなく、その場その場に応じた状況を伝えなければなりません、どういうところに気を付けていますか。」という質問に対し、その方は、「私の仕事はその場その場の的確に表現し、あたかも聴取者がその場にいる感覚になることを目標にしています。しかし、私の仕事の80%は、事前の準備です。当日は、自分も楽しむだけです。」と笑って答えていました。例えば、スポーツ実況の場合、今までの勝敗やその要因、チームや個人のコンディションなどを事前に把握しておかなければならず、その準備に膨大な時間がかかります。つまり、自信をもって仕事をするためには、備えを常にしておくことが肝要だということです。

翻って子どもたちについて言うと、新学年に備え、授業では今まで習った既習事項の復習と本時の予習、習い事では前回までに習得した技術をマスターしておくことです。来週から2月に入りますが、この時期は、現学年の学習内容の知識や技能を一学期に遡って確実に身に付けておくことが大切です。そしてもう一つは、現クラスの思い出をたくさん作ることでないでしょうか。今の学年で頑張ったことや良い思い出が、来年度の新学期からの新しい生活につながっていくからです。

「むのたけじ」さんの『より高く、より遠くへ跳躍しようとするものは それだけ助走距離を長くする』という言葉が大好きです。

焦らずに、今できることを一歩ずつ進めていきましょう。